

2018年度（平成30年度）幼稚園評価自己評価表

最終更新日 2018年（平成30年）4月25日

園番 2 福山市立 西 幼稚園

1 幼稚園教育目標

しなやかな心と体を持ち たくましく生きる子どもの育成

2 目指す自園の幼稚園像（ビジョン）

- 幼児がいきいきと楽しく活動でき、保護者が入園させてよかったと評価される幼稚園
- 教職員が幼児の目線で教育を進め、幼児が達成感、成就感を感じられる幼稚園
- 保護者・地域とともに取組をすすめる幼稚園
- 子育て支援センターとして未就園児への取組を進める幼稚園

3 目指す幼児像

- 友達といっしょに遊ぶ子ども
- 思いを伝えられる子ども
- 最後までがんばる子ども

4 自園の現状分析（地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など）

本園は福山市の中心部に位置し、商店街に隣接するがマンションや住宅地の中にあり静かな環境である。西小学校の校舎内にあり廊下でつながっている。給食も西小学校から運ぶなど日常的な交流が出来る状況にある。園児は2年教育で4歳児、5歳児が通園している。近隣に公立幼稚園がないため校区外から多くの子ども達が通園している。また、市内で唯一の難聴児のための学級を設置しており、難聴児が健聴児とともに活動している。

幼児は家庭内で過ごす時間が多く、外遊びができる場所が唯一幼稚園になっている側面もある。生活実態が多様化する中、なかなか保護者、職員以外の大人と接する機会が持てないという現状もあり、豊かなコミュニケーション能力・社会性の育成や体力の育成が課題である。

地域や保護者は幼稚園教育に協力的であり、未就園児の会にもボランティアで協力していただいている。幼稚園が地域の子育て支援センター的な役割を担うよう地域とのつながりを持つ中で心豊かな子ども達を育てよう取り組んでいる。

5 今年度の重点目標と設定理由（ビジョン実現のために）

重 点 目 標	設 定 理 由
遊びや体験を通して、自分の思いを表現する子どもの育成 ～ 子供が遊び込むための環境構成のあり方 ～	「感動体験を通して、自分の思いを表現する子どもの育成」を研究テーマに、感動体験を共有できる場として、様々な人との交流や集会活動を計画し取り組んできた。いろいろな人と出会い、ともに活動する心地よさや楽しさを感じながらの体験は、いろいろな遊びや生活の場でより自己表現していけるきっかけとなっている。また、子どもが気づき、試し、工夫し、興味を持ち、粘り強く取り組める援助のあり方を工夫し、自ら働きかけたくなるような環境構成を工夫していくことで、豊かな感動体験につながり、表現したい、伝えたいという気持ちにつながっていくと考える。また、個に応じた環境を工夫したり、体験を振り返ったりするなど蓄積していけるような支援の在り方を工夫し、「わかる」ことで自ら心を動かし「やってみよう」「伝えたい」という気持ちを育てていきたい。

6 目標・方策・評価

※【評価】 Aー達成した Bーほぼ達成した Cーじゅうぶん達成していない Dー達成していない

	3年間の目標	1年間の目標	具体的な方策	評価	評価結果	
					○=反省や課題	◎=改善のための方策
生きる力の基礎	先生や友達の話をしっかりと聞き、考えを自分なりのことばで表現する力をつける。	絵本に興味を持たせると共に思いを自分の言葉で表現できる力を育てる	年間180冊は絵本の読み聞かせをおこなう。 学期に1回以上、地域の施設の活用する。 地域、保護者、小学生など様々な人とのかわりの中で絵本に触れる機会を持つ。 一人が学期に1回は、みんなの前で感想や思いを自分の言葉で発表させる場をもつ。			
		保護者アンケートで「子どもが家庭で園のことを話しているか」という項目の肯定的な評価の割合を100%にする。	園からの便りや懇談会の場などを通して保護者に幼稚園教育についての理解が得られるようにする。 週に1回以上「乳幼児期に育みたい5つの力」についてのドキュメンテーションを掲示し、遊びの中で育てている姿を知らせていく。			
	しなやかな体づくりと最後まで頑張る力をつける。	基本的な運動遊びを積み重ねながら、からだを動かす楽しさを味わい、やってみたいという意欲を育てる。	毎月のカリキュラムの中に運動遊びを組み込み、目標を立てて取り組む。 基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）の定着に向けて啓発を行う。			
教師の役割	一人一人の個性を把握し個に対応する教育を実践する。	難聴児、発達障害を持つ幼児が意欲的に友達と遊ぶことができる。	支援の必要な幼児について、毎学期2回の研修を行い共通理解に努め、個の育ちについて継続的に確認する。			
	専門性を高めるための研修を進める。	新教育要領に基づく教育内容づくりに取り組む。	全職員が研修テーマに沿った研究保育を年2回以上行う。 外部講師を招いて年2回以上研修を行う。			
信頼される幼稚園	保護者・地域に開かれた幼稚園づくり。	保護者と連携し、早寝・早起き・朝ご飯を中心とした生活リズムの定着に取り組む。	保護者対象の子育て講座を年4回実施する。 降園指導時等、機会をとらえて、保護者に啓発する。			
		幼稚園の活動に地域の教育力を活用する。	教育活動に保護者、ボランティアを延べ300人以上の支援を得る。			

【生きる力の基礎】ー 健康・人間関係・環境・言葉・表現

【教師の役割】ー 計画的な環境構成・活動場面における教師の役割・人材育成

【信頼される幼稚園】ー 情報提供・他の公共機関との連携・幼児と地域住民との人間関係づくり・教育相談